

産学連携による SDGs 活動 HARU 研究の保育教材の展開

田中るみこ (教育学部)

はじめに

本研究の目的は、研究協力園の2歳から6歳児まで対象年齢に応じた HARU 研究のマスキングテープを活用した産学連携による SDGs 活動の保育教材の展開について明らかにするものである。具体的には、①アンケート調査による HARU 研究の保育教材の使用法や教育効果について論述し、②保育現場で活用した SDGs の保育教材の展開について検討する。

目的

1. 本研究の産学連携について

産学連携の研究については、様々な分野で参画されており、大学と企業が連携して研究を進めているが、幼児教育や保育教材に関わる産学連携の共同研究は非常に少ないことが現状である。本研究は、4年目の研究であり、研究協力園の園児・保育者・保護者の協力を得て、研究を実施してきた。

先行研究においては、田中(2020⁽¹⁾、2022⁽²⁾)は、産学連携の保育環境・保育教材・遊びの実践報告を実施しており、産学連携として、新しい保育教材として保育教材の商品化・実用化を目指してきた。また、教育的効果については、子どもの遊びの過程から、遊びの発展・展開につながるよう、子ども達の興味関心を深め、更なる教材開発を実施しているところである。

2. 本研究の SDGs について

SDGs とは、WWF⁽³⁾によると「SDGs (持続可能な開発目標)」とは、2015年に国連サミットにおいて、17のゴールと169のターゲットからなる国際目標のことである。これは国際社会の重要な課題を明示するだけでなく、「持続可能な世界」とは、人類による地球環境の保全と利用、消費と再生とがバランスを保ち、人と自然の共存が実現できた世界のこと」とされている。

本研究においては、産学連携の共同研究の企業から産出されたマスキングテープの廃材を再利用する保育教材の遊びにつながる製作を実施し、子どもたちが持続可能な世界に触れる機会を設定した。また、保育現場の SDGs の取り組みとして、新たな保育教材の製作とマスキングテープの教育的効果について検討する。

3. HARU 研究の保育教材とは

田中(2022)⁽¹⁾によると、「HARU 研究による HARU stuck-on-design (以下、マスキングテープ) とは、主に和紙(日本の和紙素材。指でちぎることができ、マットな質感と和紙ならではの透け感があり、ほかの色の上に貼ることで色の重ね合わせが可能)やPET(床用表示テープをベースに開発された、ツヤと光沢があるグロス素材。剥がれにくさと強度を保ち、糊残りなく剥がせる粘着剤がある)を使用したマスキングテープのことであり、一般的な市販サイズ(1.5cm)とは異なり、サイズは5cm、15cm、30cm、60cmと教材の幅が広いものである」と述べている。

田中(2022)⁽¹⁾はマスキングテープを保育教材として活用し、プラスチックや木材、布類の異素材をつなげたり、貼って剥がすなどの教材遊びなど様々実施しており、一定の成果を示している。

4. 保育教材の展開について

幼稚園教育要領⁽⁴⁾及び保育所保育指針⁽⁵⁾において、保育教材の定義は明記されておらず、子どもの発達と学習について関わる対象として、遊びを通して行われていくものとして位置づけられている。

文部科学省⁽⁶⁾によると、「幼児の遊びは、教材との関わりに即して予測をもつとともに、幼児の活動をどう広げ深めていくのかなど、教材のもつ教育的な可能性を広く捉えておくことが大切です。～中略～幼児一人一人にとってふさわしい遊びや生活が展開されるためには、使いやすさや安全性はもちろんのこと、活動の広がりや深まりを見通して、幼児が思考錯誤を重ねたり、幼児の気付きや工夫が生み出されるような教材の活用を考えることが必要です」と述べている。このことから、本研究においても教材の工夫により、子どもの興味関心を深め、遊びや生活の展開につながる可能性がある。

方法

HARU 研究に賛同いただいた研究協力園の保育者・保護者へ子どもの個人のプライバシーを保護するため、データは研究対象者の匿名化番号として記録し

た。データ管理は写真, 研究月日等の必要事項に匿名化加工情報を行い, 個人情報保護の問題を回避するよう十分に配慮した。研究で知り得た情報は本研究以外で使用しないことに同意を得ている。

【対象】

福岡市内の A・B 保育園の保育者 15/15 名回答

【研究実施期間】 20XX 年 4 月～20XX 年 1 月

【アンケート及びワークシートの期間】

20XX 年 4 月～20XX 年 12 月

【アンケートの項目】

質問項目は保育者(教職員を含む)の勤務年数, 質問 1.2 は, 保育教材としての使い勝手について設問した。質問 3～6 は, マスキングテープを貼る, 剥がす, 重ねる, 異素材をつなげることの使用について設問した。質問 7 は保育教材の適性について設問した。質問 8.9 は PET テープ, 和紙テープの製作について設問した。質問 10～13 は, 遊びの展開, 今後の課題, 使用希望などについて設問した。

結果と考察

1. アンケート調査

アンケート調査では, 保育者の職歴は初任・2～3 年目(4 名), 10 年以上(11 名)の回答であった。保育教材の使い易さの項目では, 「とてもあてはまる」「少しあてはまる」の回答が 93% (14/15 人) の回答であった。保育教材として使い易い理由として, 「HARU 研究のマスキングテープは, 幅の広いものが多く, 活用の幅が広がった」「壁や窓枠などガムテープでは貼りにくいところもあと残りなく貼れるのがよかった」などの回答があった。マスキングテープは貼って剥がせる特性があり, 和紙タイプのものは色を重ねても発色が良く, そのまま教材として活用できることなどが使い勝手の良さにつながったと考えられる。

「今回, マスキングテープの製作は楽しかった」「機会があったら, またマスキングテープを使ってみたい」の質問項目については, 「とてもあてはまる」の回答が 86% (13/15 人) の回答であった。また, 全員 100% (15/15 人) が廃材を手に入る場合には希望したいと回答した。このことから保育教材として, マスキングテープの活用と需要の期待があることが明らかになった。感想については, 「子ども達(3 歳児)は, マスキングテープをちぎって貼ることが難しかったため, 予め保育者がまとめてちぎって準備をし

た。身体のかなりの子どもは自分なりにちぎることができていた」「材料費など保育教材の費用もかかるため, 廃材を再利用した教材はとても助かる」「廃材を利用した保育遊びは今まで行ってきていたが, 市販ではなかなか見れないものが企業から提供いただけることは, お互いにとってもメリットがあると思う。子ども達も思いっきり使っていて楽しそうであった」などの意見が見られた。このように, 保育者からもマスキングテープの使い勝手や廃材を利用した教材遊びについては保育の中で取り入れやすいものであると考えられる。

2. SDGs の保育教材の展開とまとめ

本研究の保育教材としては, 廃材を活用した SDGs の取り組みについて, 子ども達自身で遊びが展開していった様子が見られた。マスキングテープは貼って剥がせる素材のため, 子ども達は思い思いに, オリジナルの製作や遊びが行われている姿が見られた。また, 保育現場では, 日頃から家庭や保育園から排出される廃材の製作遊びは実施しているが, 企業から提供される廃材を活用することは殆どないことが明らかになった。このことから, 更に産学連携による SDGs の保育教材の展開を広げていきたい

今後の課題としてはアンケート数を増やして統計処理やクラスや学年全体でできる集団遊びを考案していきたいと考える。

引用・参考文献

1. 田中るみこ・圓入智仁, 産学連携 HARU 研究 HARU stuck-on design を使用した保育環境・保育教材の開発 日本保育学会第 73 回研究大会要約集, p94. 2020.
2. 田中るみこ, 産学連携 HARU 研究による HARU stuck-on-design を使用した保育環境・保育教材の開発—保護者と保育者へのアンケート調査—, 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 54 号, p. 97-106. 2022.
3. WWF SDGs <https://www.wwf.or.jp/>
4. 幼稚園教育要領, 文部科学省.
5. 保育所保育指針, 厚生労働省.
6. 幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開, 文部科学省. 2020.

※研究協力: 北海道大学 COI, 株式会社ニトムズ
※本学は北海道大学 COI の参画機関であり, 本研究は北海道大学 COI 「食と健康の達人」拠点の産学連携の関連研究である。